
深海

パンサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

深海

【Nコード】

N7249P

【作者名】

パンサー

【あらすじ】

潜水調査隊のはなしです

俺は、新人の海底調査隊員名前は、 勇次

俺は、今日初めて海に潜る潜水艦に乗って

「船長今日は、よろしくお願いします。」

「きみが勇次君か海に潜るのは、今日が初めてだったな」

俺は、船長に軽くあいさつをした。

「ところで船長深海ってどんなところですか？」

「潜水艦の光が照らす方向に見たこともない世界が広がっている」
船長に深海の事を聞いていたとき

「整備が終わりましたいつでも潜れる状態です。」
整備員が整備し終わったことを報告にきた

「そろそろ行くかきみにとっての初めての深海に」

「はい」

俺は、船長と潜水艦に向かった。

俺は、潜水艦との距離が縮まるにつれ胸の鼓動が早くなった。

潜水艦は二本のアームによって固定されている
潜水艦に着いた。

「じゃあ乗ろう」

「はい」

船長がゆっくりと潜水艦の中へ入っていく

「もう入って来ても良いぞ」

「はい」

そーっと中に入った。

潜水艦の中は、思ったほど広くは、なかった。

「どうだ潜水艦の中は」

「思ったほど広くないですね」

「時期に慣れる」

突然無線背で本部から連絡が来た。

「そろそろ潜れますか？」

「ハッチを閉めるだけです。」

「了解」

俺は、ハッチを閉めた。ギィィィィドスン

船長がハッチ閉めた俺を見て

「本部ハッチが閉りました。」

「了解・・・これから潜水艦を海に着水させる」

潜水艦を固定していた二本のアームが海へと導く

クオオオオンガシン

バシャーン

潜水艦が海に入った。

「これから海に潜る」

船長が本部に連絡した。

「了解」

「これから発進する。」

ゆっくりと潜水艦のスクリュウが動きだした。

「潜るぞ」

潜水艦が高い水しぶきを上げながら海に潜っていく

「よく窓の外見ていた方が良くぞ海の中は、未知なる生物がたくさ

んいるからな」

俺は、窓の外をよく見ていたマグロの大群がいた

「船長マグロです」

「そうか美味しそうか？」

「はいマグロ丼1000人ぶんは、作れそうです。」

「ハッハッハッ面白いことを言うな君は」

マグロのほかに魚がいなかずつと窓の外を見ていた。

だが他の魚は、いなかった。

外がだんだんと見えなくなってきた。

「船長そろそろメインのライトつけたほうが良くないですか？」

「じゃあつけるか」

船長がライトのスイッチを押した

「外を見てみるといい」

船長が外を見ることを進めてきた。

俺は、窓の外を見た。

光の先には、谷がありライトの光がスーッと吸い込まれていった。

「船長すごいですね」

「私も深海を始めて見たときは、君のように感動したよ」

こんなに素晴らしい世界があるなんてそう思った。

「私は、宇宙もこの海も似たようなものだと思う。」

船長が語りだした。

「どうしてそう思うんですか？」

「宇宙のことは、まだほんの一部しかわかっていないだろ海だってそうだ」

たしかに言われてみればそうだ。

「だから深海は、地球の宇宙なんだと私は、思う」

「宇宙のことで海のことでどっちが早くわかるんでしょうね？」

「さあ、あんがい宇宙のことが早くわかるかもな」

「そうかもしれないね」

この青い星には、まだまだ俺たちが知らないことがたくさんある

この星のこと知りたいとゆう気持ちが強ければ強いほどこの星のことが早くわかるだろう。

君の将来の夢も同じことだ夢をかなえたい気持ちが強ければ強いほどその夢は、早く叶えられる今は、まだ小さなことしか出来なくても今は、その夢が叶えられそうになくても強く思い続ければ君の夢は、いつか叶うはずだ。

でも君が強く思い続けなくなったらそこでその夢は、一生叶えられなくなってしまう。

あきらめたらそこでお終いなんだ。

君は、こう決め付けてないかこの夢は、叶えられない

たとえ今は、まだ真っ暗な深海の中にいても強く思いつづければい

つか潜水艦の光よりも強い光が君がいる真つ暗な深海を照らすだろ
う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7249p/>

深海

2010年12月30日23時48分発行